

公益財団法人建築技術教育普及センター 平成30年度調査・研究助成
「児童養護施設の改修による生活空間の質的改善効果に関する研究」報告書・概要

研究代表者：伊藤潤一（千葉大学大学院融合理工学府建築学コース・助教）
共同研究者：林立也（千葉大学大学院融合理工学府建築学コース・准教授）
柳澤要（千葉大学大学院融合理工学府建築学コース・教授）

1. 背景と目的

児童養護施設の脱施設化の推進は、家庭的な雰囲気
を児童に提供し、安心感のある場所で大切にされ
る経験を提供することで、自己肯定感を育む効果が
期待されている。しかし、その「家庭的な雰囲気」
をつくりだす空間の質的側面についての指針はな
く、各施設独自の判断に委ねられていることで、様
々な問題が顕在化している。

本調査・研究は、現在空間の質的側面について指
針のない児童養護施設について、要養護児童の生
活空間の質的側面に関する実態調査、および大規模
改修の工事内容等の調査を行うことにより、空間の
質的向上を図る効果的な改修方法の提案を行うこと
を目的とする。

2. 方法

調査Ⅰ（視察調査）：本研究では第一に、国内の
児童養護施設のデザインや取り組みにおける先駆的
事例の視察を実施した。視察調査を実施した施設が
建築的に子ども達の生活空間の質的向上を図って
いる実際の状況、設計やデザイン、取り組みについ
ての調査を実施した。同時に建築・室内空間の質に
関する問題点、管理上の問題点などもあわせて調査
した。また、近年（ここ5年以内）大規模改修工事
を行った施設や特異な敷地状況をもった施設など
を抜粋し、施設の改修実態の調査、ヒアリング等
を実施し、考察した。

調査Ⅱ（全国アンケート調査）：第二に、全国の児童
養護施設へのアンケート調査を行った。当初の調査計
画では、大規模改修の予算使用分布データの収集のみ
を予定していたが、生活空間の質的側面に関する調査
項目を重点項目として追加した。調査項目は以下の通り
だった。1) 施設の分類体制について、2) 現在の児童養
護施設の建物について、3) 児童養護施設の改修につい
て、4) 改修費用について、5) 施設のインテリアについて、
6) 意見・感想

3. 調査報告

3-1. 調査Ⅰ（視察調査）について

7施設の視察およびヒアリング調査を行った。以下の
考察が得られた。（一部抜粋）

<施設A>

- ・子ども達の殴打や照明への破壊行為が目立つ。クロス
が剥がされ、落書きなどが散見。
- ・観葉植物の管理が難
しい場合、人工植物を用いる。
- ・クロスなどを保管。
- ・修理や修繕が容易な仕様の選択が必要。
- ・クッション付きフ
ローリングは反り上がる。硬質素材を選択。
- ・ガラスに飛
散防止フィルムを貼る。

<施設B>

- ・必要がないと改修工事は、免除する措置が必要。
- ・専
門家に近いインテリアに関する知識のある職員・子ども
達が自発的・能動的に室内環境の改善を提案。

<施設C>

- ・和室のもつ良さを残す改修。
- ・住宅密集地の園庭取り



写真1. 壁紙の工夫



写真2. 洗面所を飾る

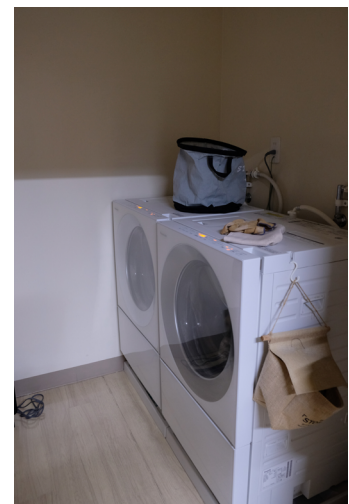


写真3. デザイン家電

方、プライバシー検討が必要。・施設に対する法的緩和措置なども考慮すべき。

<施設 D>

・施設内に大きな工作室。・大きな倉庫に、家具ストック。・すぐに直すことを心がけている。

<施設 E>

・RC に直塗装を多用。・施設全体を貫くコンセプトがある。・スタッフのための空間を整備、子ども達が気軽に立ち寄れる場づくり。

<施設 F>

・家具などが造り付け、容易に間取りなどを変更ができない。・旧施設の記憶を継承する設計がなされており、が子ども・スタッフの施設への愛着。

<施設 G>

・子ども達と要望を聴取するワークショップと大工との関係をつくるワークショップを実施。・床材は無垢フローリング、壁・天井はクロス。・家具はシナ集成材、各部屋には装飾。・家具は市販の無垢材家具を購入。・子供部屋の収納は棚板とパイプハンガーのみ。・照明は蛍光灯を取り止め、電球色で暖かみ。

3-2. 調査II (全国アンケート調査) について

実施期間：2019年2月1日に郵送し、同年3月10日を期限とした。回答数：66 (回答率：10.5%)、以下の詳細内容のアンケートを行い、知見を得ることができた。

1) 施設の分類体制について：施設と児童の分類、定

員、平均在所期間、職員の内訳、職員体制

- 2) 現在の児童養護施設の建物について：子ども部屋とリビングの床壁天井の仕様、リビングの家具・備品の設置、キッチン仕様、トイレ・浴室の仕様、設備機器の管理方法、子どもの居場所
- 3) 児童養護施設の改修について：2005年以降の建替えや改修の履歴、設計上重視した点、要望の聴取状況、ワークショップの実施
- 4) 改修費用について：建替え・改修の財源と割合、工事費の内訳、仮設住宅の坪単価
- 5) 施設のインテリアについて：インテリアに関する相談相手の有無、家庭的な雰囲気作りの工夫
- 6) 意見・感想 (自由記述)

4. まとめ

豊かな環境を保っている施設には一定の共通性が見られた。こうした共通性から、児童養護施設における生活空間の質的側面を改善していく上で、限られた改修予算の使い方に関する具体的な項目を提案した。

建築分野の児童養護施設における建築デザインへの関心は薄く、要支援児童の住環境の改善に対して、研究者のみならず、実務家が積極的に関わる必要性がある。その中で、単にデザイン性を優先するのではなく、施設特有の内装仕様の選定基準や設備の在り方などについて、指針づくりのための知見を得ることができた。



写真4. ドレッサーコーナー



写真5. 職員打ち合わせコーナー



写真6. 管理室の一角



写真7. 自然素材のダイニング家具